

関連づけよう ～市民社会とは？～

高校3年生

I アクティビティについて

ねらい

人権が尊重される社会の実現のために必要な「権利」や「責任」に関する認識を促進し、自らの「権利」を適切に主張できるとともに、それに伴う「責任」をきちんと果たすための知識、技能及び態度を養う。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎権利と責任
- コミュニケーション能力
- 人間の尊厳・価値の尊重

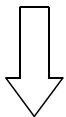
設定の理由

この発達段階の生徒でも、人権が様々な人々の努力によって確立され、発展させられてきた経緯があり、人権が守られることで自分たちもはじめて人間らしく生きることができるという意識や認識は不十分である。そのため、すべての人の人権が保障される民主的な社会を建設しようとする意欲や態度も十分に育っているとはいえない。

そこで、民主主義社会における具体的な行為主体の立場に立ってものごとを考え、意思決定をし、交渉によって実現を図ろうとする参加型の疑似体験学習を通して、交渉による合意形成、「権利」の主張と「責任」の遂行などについての知識や技能を育成したい。

アクティビティの概要 (2時間扱い)

活動1 アクティビティ「関連づけよう」を行う。 1時間
 ・4つの行為主体それぞれの立場に立った交渉活動をとおして、「権利」と「責任」の関係を学ぶ。



活動2 アクティビティ「関連づけよう」のふり返しを行う。 1時間
 ・自分たちのグループが行った交渉活動をふり返る。
 ・「マップ」を使用し、自己の主張を実現するために何が大切かを全体で話し合う。

アクティビティの実際

- 準備するもの
 - ・ 模造紙をグループごとに1枚
 - ・ 色の違うマーカー（例えば緑と赤）を各グループに2本
 - ・ ヒモか毛糸の玉（できれば緑色）
 - ・ 粘着テープ
 - ・ はさみ
 - ・ 太めのひもを1.5メートルに切っておく

□ アクティビティの進め方

活動1 関連づけよう

- ① 参加者は四つの同じ大きさのグループに分かれ、各グループは、政府、NGO、マスコミ、市民（行為主体）を選ぶ。
- ② 各グループは、それぞれの「行為主体」が民主主義社会で果たすべき役割（それが果たすべき主要な機能）について、ブレーストーミングを10分間行い、重要な機能を赤のマーカーで5つ書き出す。
- ③ グループ全体で四つの「行為主体」について相互に意見の分かち合いをし、意見交換をする。その際、修正したいグループは修正する。
- ④ ふたたびグループの活動に戻る。他の「行為主体」にどのような要求をするかをブレーストーミングする。この要求事項は別々に項を立てて、緑色のマーカーで書き出す。
- ⑤ 各グループで、重要と思われる要求5個に優先順位をつける。そこで、粘着テープと毛糸で5個の要求に印をつける。
- ⑥ 交渉活動のルール（別紙参照）をもとに交渉ラウンドを開始する。
 - ・ 2つのグループの間で一つの要求が受け入れられたら、相手側がその責任を引き受けたことを表すために、それぞれの紙に1本のひもの端を結合させる。このようなことを自分以外のグループと3回繰り返す。

活動2 振り返り

- ① 「関連づけよう」を振り返って話し合う。
 - ＜振り返りの留意点と発問例＞
 - 教師は、グループを回りながら支援を行う。
 - 受け入れられた要求と拒否された要求について整理させ、「権利」と「責任」の大切さに気づかせるようにする。

発問例

受け入れられた要求と拒否された要求を整理してみましよう。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ 各グループが自分たちの機能について書き出した後で、全体のディスカッションにあまり時間をかけすぎないようにする。
- ◇ 他の行為主体に対する要求を書くとき、現実的でない要求はしないように注意する。
- ◇ 各グループは互いに協力的関係にあるべきこと、全ての人たちが満足できるように「行為主体」どれもが共同する社会の確立が目的であることを強調しておく。
- ◇ 学校の実態によっては、「行為主体」を学校・教師・保護者に変更して実施する事も可能である。

Ⅱ 授業展開例

～高校3学年「総合的な学習の時間」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ
1	1 アクティビティのやり方を確認する。	○簡潔、明瞭に説明する。 ○事前にグループを決めておき、発表する。
	アクティビティ「関連づけよう」を実施しよう。	
	2 アクティビティを実施する。	
1	3 アクティビティのふり返りを行う。 ・グループ毎に交渉活動をふり返る。	○教師はグループを回りながら、支援を行う。 ○受け入れられた要求と拒否された要求について整理させる。
	4 「受け入れられた要求」「拒否された要求」に共通する特徴を考える。 〔予想される発表〕 ・「受け入れられた要求」には、人権に関するものが多い。	○「受け入れられた要求」「拒否された要求」に共通する特徴を考えさせる。 ○各グループの「マップ」を黒板などに張り出し、グループごとに発表させる。
	5 全体でのまとめを行う	○クラス全体で「権利」と「責任」について意見交換させる。

Ⅲ 資料

(1) 交渉活動のルール

交渉活動のルール

- 1 このアクティビティーの目的は、各「行為主体」（市民・NGO・マスコミ・政府）が自分たちの要求を他の「行為主体」に受け入れてもらうようにすることです。
- 2 交渉は3ラウンドにわたって、二つずつの「行為主体」間で行われます。
 - ・第1ラウンド：市民とNGOならびにマスコミと政府が相互に交渉する。
 - ・第2ラウンド：市民とマスコミならびにNGOと政府が相互に交渉する。
 - ・第3ラウンド：市民と政府ならびにNGOとマスコミが相互に交渉する。【※それぞれの立場になりきることが大切です。】
- 3 各ペアでどちらが先に始めるかを決め、順に相手に対する要求を説明します。
- 4 要求を出すときは、はっきりと簡潔にまとめること。また、要求理由と自分たちの機能を十分果たすためになぜ重要なのかを説明します。
- 5 要求を受け入れるかを決めるときは、内容が公正なものか、また自分たちがそれを実行できるかどうかを考慮します。
- 6 もし、要求された方のグループがその要求を拒否する場合は、ひもをはずします。要求が受け入れられた場合は、二つのグループ間に関連づけができたことを示すために、双方をひもで結びます。
※要求を受け入れたグループは要求の内容をメモしておくといよい。
- 7 全ての要求が討議されるまでこのプロセスを繰り返します。
- 8 4つの行為者の間につながりができるまで、各ラウンドのプロセスを繰り返します。